

11月13日（月）その95 ギャンブルはどっち？－スロットと宝くじ－

スロットマシンに関する私のウンチクを、「その16 スロット天国沖縄」で話した。ずっと自己開示しているが、私は若い頃からスロットが趣味で、今でも休日などによく行きます。日本のパチンコやスロットは「ギャンブル」ではありませんが、ギャンブルと決めつけられ悪者扱いです。「宝くじ」はギャンブルなのに「夢を買うもの」と肯定され、悪くいう人はいません。

スロットマシンをやるお店は「遊技場」と言います。遊技場は「風俗営業法 23 条」によって、現金を商品として提供することはできません。現金を提供すれば、刑法で禁止されている「賭博（ギャンブル）」に該当してしまうからです。ただし遊戯の結果によって「賞品」を提供することは認められています。多くの店で提供される賞品は、トランプ札くらいの大きさのプラスチックの板状のものです。でも客の目的は現金を手に入れることです。どのような仕組みになっているのか、プロの私がご説明いたしましょう。（笑）

それは「三店方式」と呼ばれています。パチンコ・スロットの遊技場では、出玉を特殊景品に交換します。換金ではありません。その特殊景品を、たいてい遊技場のすぐそばにある「交換所」が、現金で買い取ってくれるのです。交換所は遊技場とは別会社の古物商です。交換所は買い取った特殊景品を、別の「景品問屋」に売り、景品問屋が遊技場に売るのでそうです。

つまり遊技場は、特殊景品を現金に換えてはいません。だからギャンブルではないのです。この「三店方式」は、国も警察もちゃ〜んと認めているのです。…何か文句でもありますか？（笑）

宝くじはギャンブルです。国民からあくどくお金を吸い上げるため、国が「当せん金付証票法」という特別法を作って、公営ギャンブルを独占的に営んでいるのです。宝くじはいくつかの公営ギャンブルの中で、一番還元率が低いようです。「宝くじ」という夢を見させるネーミングで、多額の金をぶんどる「悪魔のくじ」なのです。「10 億あれば、たいていのことはできる!」、「買わなきゃ当たらない」などと人気俳優に言わせて、国民全体をマインドコントロールしているのです。（笑）私はその甘い言葉にだまされて、宝くじのギャンブル依存症になってしまい、毎年 1.5 万円分 36 年間買い続けた。54 万円出資して、還元されたのは 7.4 万円（1 万円が 2 回、300 円が 180 回で 5.4 万）。46.6 万円もぶんどりやがって、チクショウ!!（笑）

今年も「年末ジャンボ」が 11 月 27 日（月）から発売されます。1 ユニットのの中に、7 億円の当たりくじが 1 本、前後賞が各 1.5 億円で、連番で買えば 10 億円が当たる可能性がある。年末ジャンボの 1 ユニットの 2,000 万枚だから（ちょっと前は 1,000 万枚だった）、1 枚買って 7 億円があたる確率は二千万分の一になる。0.00000005 の確率！まあ、だいたい 9 個のサイコロを同時に投げて、全部 1 の目が出るくらいの確率と考えると遠くない。

さて、年末ジャンボ 7 億円を当てる方法がある。1 ユニットの宝くじを全部買うことである。必ず 10 億円の当たりくじが入っている。1 ユニットの 2,000 万枚、値段は 60 億円です。または 9 個のサイコロを準備して同時に投げて、全部 1 の目が出たら、買いに行きましょう。宝くじ並みの確率を達成したあなたは強運の持ち主です。絶対 10 億円が当たりますよ!!（笑）

11月14日（火）その96 超高齢化社会とサプリメント

先週の新聞の投書欄で「CMに乗せられてサプリ漬けの日々」の川柳を、チラリと見た。その言葉が私の心に引っかかった。「サプリメント」は1990年代から聞かれるようになっただろうか。栄養補助食品という意味で、ビタミンやミネラルなど不足しやすい栄養素を補うための食品。栄養素を凝縮し、錠剤やカプセル、飲料の形にしたものが多い。

サプリメントユーザーのほぼ半数は60歳以上の男女高齢者層が占めていて、年間購入金額も高く、市場拡大に貢献しているようである。確かに美肌、若さ、精力剤、物忘れ、関節の痛み、難聴、眼のぼやけなどに効くという広告をよく目にする。若者には「必要ないもの」ばかりだ。

「この人、何歳に見えますか？」という類いのCMをよく目にする。いかにも「この商品のおかげで」と、効果がありそうにセサミン、グルコサミン、コラーゲンなどの専門用語を含んで語られる。でも小さな字で、「個人の感想であり、効果には個人差があります。」などと必ず書かれている。強調して万人に効くように思わせながら、小さな文字で個人差があると薬事法（「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」）に接触しないよう対策をしている。都合のいい魔法の言葉だ。さらに「放送後30分以内に！」と考える時間を与えずにせき立てる。

補助食品は医薬品ではないので、確かに効くという臨床実験や科学的根拠は必ずしも必要としない。多くの会社が膝関節の痛みにも効くと大々的に売り出している有名なある成分は、アメリカでその症状の患者200人に24週間摂取してもらった実験をしたが、全く変化はなかったという報告もある。「昔のようになりたいとする叶わぬ夢」につけ込むサプリメントもあるようだ。

あるマーケティングリサーチ会社の調べによると、2015年の健康食品・サプリメントの推定市場規模は1兆5千億円で、調査が始まって以来ずっと拡大傾向が続いているという。日本は人口は減り続けているが、高齢者人口は一貫して増加している。65歳以上の高齢者は総人口の27%となり、4人に一人は高齢者なのである。さらに超高齢化社会は進行し内閣府の資料によると、2035年の高齢者率は33%を越える見込みだそうだ。

だから高齢者をターゲットにした商品や市場開発は、さらに加熱していくことだろう。今後も「若さを保ちたい！長生きしたい！」という人間の不老不死願望で、「サプリメント漬け」の人が増えていくことだろう。

最近「長生き」が必ずしも祝福されることとは限らない。健康で自分の足で歩くことができ、お金もある程度持っていて、自分のことは自分でできるなら長寿も歓迎すべきことである。しかし「寝たきり」、「介護」、「痴呆症」等々、家族が犠牲になる場合には祝福はされないと思うが、どうだろう。

私は腰痛や膝の痛み、髪の毛が薄くなったことも受け入れて、自然体で年を重ねて行けたらと思っている。そしてぽっくりと逝きたいもんだ!!
……でも今じゃーあないよ。36年間納め続けた年金を、半分くらいはもらってからね。(笑)

良寛のいう「災難に遭うときには災難に遭うが候 死ぬ時節には死ぬが候」や「散る桜残る桜も散る桜」のように、悠然と構えた生き方がしたい。

11月14日（火）その97 目に見えない「渡嘉敷島」も学んできて！

明日から2泊3日の予定で研究員の渡嘉敷村での離島研修がある。

「慶良間（きらま）や見（み）ーしが、まち毛（ぎ）や見ーらん」と、沖縄の黄金言葉にもあるように、慶良間は、那覇港の水平線上に浮かんでいる島々なので、昔から那覇人（なーふあんちゅ）にも馴染みが深かった。

琉球国時代の唐船の水夫は、慶良間出身者が多かったそうである。それは慶良間には天然の良港（阿護の浦）があり、唐船の避難地や中継地になっていたからである。慶良間の青年達は泳ぎがうまいと記録にも残っているようだ。また「キラマダムン」は、なーふあ（那覇）では必需品だった。

沖縄戦ですべてが破壊されマックラシン（真っ暗闇）の沖縄では、琉球国時代から1950年代後半まで、食事を作るには薪（タムン）が必需品だった。「♪♪あんまー たむのー きぶとんどお きぶしぬ きぶさぬ 涙そうそう♪♪」の世界なのだ。（民謡「ちんぬくじゅーしー」）

ヤンバルダムンよりもキラマダムンは質がよく、人気があったそうだ。

明治時代の座間味村の松田和三郎村長は、沖縄における鰹漁の創業者として知られる。44歳で間切長に就任、その後明治41年に「間切」が「村」に変わったので村長となり、17年間村長だった方だそうだ。明治41年に宮崎県の鰹漁船を手に入れ、鰹の釣り方や鰹節の作り方を習い、沖縄で初めて鰹漁を行った。慶良間での成功が、鰹漁を沖縄中に普及させ、沖縄に巨万の富をもたらした。かつおは方言でカチューと呼んでおり、キラマガチュー（慶良間産のかつお節）の名は県内にとどろいた。もちろん渡嘉敷村でもキラマガチューを作っていた。渡嘉敷小中の近くに煙突など工場の跡が残っていると聞いたことがある。

1945年の沖縄戦でアメリカ軍は慶良間海峡に集結し、3月26日慶良間の島々に艦砲射撃を行い上陸した。日本軍が駐留していたために、慶良間列島は悲劇に襲われた。米兵の上陸で日本軍から「集団自決」が強要されたのだ。

以下は、所長講話「その19 赤飯」の一部を再掲した。元小学校長宮平さんから私が直接聞いた話だ。座間味も渡嘉敷も惨状は似ていた。

座間味にアメリカ軍が上陸したとき、宮平さんは5才だったそうです。訳も分からず母親と山中を何日も逃げ回りました。海岸に近い自然壕に身を潜めると、宮平少年はお腹がすいてたまらないので、「母ちゃん、ご飯が食べたい。」と言ったのだそうです。母親は、夜の闇に紛れてどこかに出かけ、しばらくすると少量のお米を持って戻ってきたそうです。そして暗闇の中でそのお米を海水で洗い、真水がないので、近くの田んぼの水を入れてご飯を炊いたのだそうです。翌朝宮平少年がナベのふたを開けると、赤飯が炊けていました。水をくんだ田んぼをよく見ると、艦砲射撃などで亡くなった方々の死体から血が流れ出し、田んぼが真っ赤に染まっていたのだそうです。

国立公園慶良間諸島やラムサール条約登録湿地、鯨、ケラマブルー、マラソンなどの観光資源、渡嘉敷島の教育（渡嘉敷小中学校、阿波連小、国立沖縄青少年交流の家）など現在の自然や文化だけでなく、鰹漁やキラマダムン、沖縄戦の悲惨な島の歴史などなど、今では目に見えない「渡嘉敷島」にも触れて学んできて欲しい。